

「子曰わく…」小学生向けに論語の素読会

儒教の祖、孔子の言行を記録した「論語」を読むことで、他人への思いやりや親兄弟を大切にす
る気持ちを育もうと、松江市内の「めだか論語普及会（佐藤京子会長）が、市内の小学生向けに論語の素読会を開いている。

めだか論語普及会は、同市古志原5丁目の小谷忠延さん（71）ら、論語を愛する人たち約150人の集まりで、2008年に発足した。

松江・めだか普及会

これまで大人の素読会を続けてきたが、思いやりや孝行、学びの大切さなどを説く古典に、幼少から親しんでもらおうと子ども対象の素読を計画。昨年10月から半年間、会員向けに指導者養成を行い、約20人が素読や解説のやり方を習得した。

7月から城北公民館（北堀町）と八雲構造改善センター（八雲町西石坂）に設けられている放課後児童クラブで、それぞれ月に1、2回、素読会を実施。会場では、「子曰

思いやりの気持ち育む

（のたま）わく…」と同会の指導員が論語の一節を読み上げ、続いて小学生が音読する。紙芝居を使った内容解説もある。

八雲町での素読会に参加した八雲小1年の深江葉月さん（6）は「紙芝居も読むのも全部楽しかった。教えてもらった『論語』はおうちでも練習してる」と楽しそうに話した。小谷さんは「今後、市内を中心に素読会を増やしていきたい」と普及への思いを語る。

めだか論語普及会の指導員（右）に続いて、大きな声で論語を素読する子どもたち

